

事務事業名		中小企業振興事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画登載事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略登載事業																																					
政策体系	政策名	01 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間		予算科目																																					
	施策名	03 にぎわいあふれる商業・観光の推進				会計	款	項	目	事業																																	
	基本事業名	01 活気あふれる商業地の形成支援		<input type="checkbox"/> 単年度のみ	01	07	01	02	01																																		
根拠法令		大船渡市中小企業振興事業補助金交付要綱、大船渡市補助金等交付規則		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 昭和61 年度～)		事務事業区分																																					
所属	部課名	商工港湾部商工課		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【計画期間】		A 政策事業 B 施設整備																																					
	課長名	富澤 武弥		年度～ 年度		C 施設管理 D 補助金等																																					
	係名	商工係	電話	0192-27-3111	※全体計画欄の総投入量を記入		E 一般(A～D以外)																																				
	担当者	鈴木 亨	内線	109																																							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)																																							
<p>中小企業の振興を図るため中小企業者で組織している団体等が、共同で「同業種・異業種交流促進事業」、「新商品開発促進事業」、「販売促進事業」、「人材養成促進事業」、「商店街づくり事業」のいずれかの事業を実施する場合、対象経費の1/2以内(東日本大震災被災企業を含んだ団体等が申請した場合は2/3以内)で補助金を交付する事業。平成30年度から外国人観光客受入促進事業を新たに加え、対象経費の2/3以内(東日本大震災被災企業を含んだ団体等が申請した場合は3/4以内)で補助金を交付する。さらに令和3年度限定で、「販売促進事業(コロナ枠)」を追加し、対象経費の3/4以内で補助金を交付することとした。</p> <p>主な業務は、①事業の周知、②団体からの事業計画書受付、③計画書の審査、④補助金額の内示、⑤補助金交付申請書受付、⑥補助金交付決定、⑦団体による事業実施、現地確認、⑧補助金請求書、事業実績書の受理、⑨精査、支払。</p> <p>事業費は、中小企業者で組織する団体等が行う対象事業に対する補助金として支出される。</p>				<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="2">事業内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">人件費</td> <td rowspan="2">人員</td> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>				総投入量 (千円)	事業内訳	国庫支出金		都道府県支出金		人件費	人員	地方債		その他				一般財源				事業費計(A)	0			正規職員従事人数				延べ業務時間				人件費計(B)	0			トータルコスト(A)+(B)	0
総投入量 (千円)	事業内訳	国庫支出金																																									
		都道府県支出金																																									
人件費	人員	地方債																																									
		その他																																									
		一般財源																																									
		事業費計(A)	0																																								
		正規職員従事人数																																									
		延べ業務時間																																									
		人件費計(B)	0																																								
		トータルコスト(A)+(B)	0																																								

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)								
前年度実績(前年度に行った主な活動)	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 補助金交付件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>イ 募集回数</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 補助金交付件数	件	イ 募集回数	回	ウ	
名称	単位								
ア 補助金交付件数	件								
イ 募集回数	回								
ウ									
今年度計画(今年度に計画している主な活動)									
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)								
市内事業所	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 市内事業所数(経済センサスより)</td> <td>事業所</td> </tr> <tr> <td>キ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	カ 市内事業所数(経済センサスより)	事業所	キ		ク	
名称	単位								
カ 市内事業所数(経済センサスより)	事業所								
キ									
ク									
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)								
市内中小企業者で組織している団体、グループなどが、共同で中小企業の振興に取り組む	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 事業実施団体数</td> <td>団体</td> </tr> <tr> <td>シ 事業実施団体構成員数</td> <td>者</td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	サ 事業実施団体数	団体	シ 事業実施団体構成員数	者	ス	
名称	単位								
サ 事業実施団体数	団体								
シ 事業実施団体構成員数	者								
ス									
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)									
中小企業の振興が図られる。									

(2) 総事業費・指標等の推移																																																																																																																																																																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">事業費</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="7">年度</th> </tr> <tr> <th>2年度(実績)</th> <th>3年度(実績)</th> <th>4年度(目標)</th> <th>5年度(目標)</th> <th>6年度(目標)</th> <th>7年度(目標)</th> </tr> <tr> <td rowspan="6">投入量</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>千円</td> <td>1,480</td> <td>3,084</td> <td>5,000</td> <td>5,000</td> <td>5,000</td> <td>5,000</td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>千円</td> <td>1,480</td> <td>3,084</td> <td>5,000</td> <td>5,000</td> <td>5,000</td> <td>5,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td>人</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td>55</td> <td>110</td> <td>160</td> <td>160</td> <td>160</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>千円</td> <td>220</td> <td>440</td> <td>640</td> <td>640</td> <td>640</td> <td>640</td> </tr> <tr> <td>トータルコスト(A)+(B)</td> <td>千円</td> <td>1,700</td> <td>3,524</td> <td>5,640</td> <td>5,640</td> <td>5,640</td> <td>5,640</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">⑤活動指標</td> <td>ア</td> <td>件</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td>回</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">⑥対象指標</td> <td>カ</td> <td>事業所</td> <td>2,471</td> <td>2,471</td> <td>2,471</td> <td>2,471</td> <td>2,471</td> <td>2,471</td> </tr> <tr> <td>キ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">⑦成果指標</td> <td>サ</td> <td>団体</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>シ</td> <td>者</td> <td>169</td> <td>132</td> <td>260</td> <td>260</td> <td>260</td> <td>260</td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		事業費	単位	年度							2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(目標)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)	投入量	国庫支出金	千円							都道府県支出金	千円							地方債	千円							その他	千円							一般財源	千円	1,480	3,084	5,000	5,000	5,000	5,000	事業費計(A)	千円	1,480	3,084	5,000	5,000	5,000	5,000	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	延べ業務時間	時間	55	110	160	160	160	160	人件費計(B)	千円	220	440	640	640	640	640	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,700	3,524	5,640	5,640	5,640	5,640	⑤活動指標	ア	件	3	7	10	10	10	10	イ	回	1	2	2	1	1	1	ウ								⑥対象指標	カ	事業所	2,471	2,471	2,471	2,471	2,471	2,471	キ								ク								⑦成果指標	サ	団体	4	4	8	8	8	8	シ	者	169	132	260	260	260	260	ス							
事業費	単位			年度																																																																																																																																																																									
		2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(目標)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)																																																																																																																																																																						
投入量	国庫支出金	千円																																																																																																																																																																											
	都道府県支出金	千円																																																																																																																																																																											
	地方債	千円																																																																																																																																																																											
	その他	千円																																																																																																																																																																											
	一般財源	千円	1,480	3,084	5,000	5,000	5,000	5,000																																																																																																																																																																					
	事業費計(A)	千円	1,480	3,084	5,000	5,000	5,000	5,000																																																																																																																																																																					
人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																					
	延べ業務時間	時間	55	110	160	160	160	160																																																																																																																																																																					
	人件費計(B)	千円	220	440	640	640	640	640																																																																																																																																																																					
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,700	3,524	5,640	5,640	5,640	5,640																																																																																																																																																																					
⑤活動指標	ア	件	3	7	10	10	10	10																																																																																																																																																																					
	イ	回	1	2	2	1	1	1																																																																																																																																																																					
	ウ																																																																																																																																																																												
⑥対象指標	カ	事業所	2,471	2,471	2,471	2,471	2,471	2,471																																																																																																																																																																					
	キ																																																																																																																																																																												
	ク																																																																																																																																																																												
⑦成果指標	サ	団体	4	4	8	8	8	8																																																																																																																																																																					
	シ	者	169	132	260	260	260	260																																																																																																																																																																					
	ス																																																																																																																																																																												

事務事業ID	0376	事務事業名	中小企業振興事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 本事業開始前は、景気の低迷により個人消費が伸び悩み、個店では消費者の様々なニーズに応えるべく努力はしていたものの、各店独自の大きな事業には手をつけられない状況であった。そのため、市内中小企業団体や商工業界の活性化を図る目的に中小企業振興事業を昭和61年度に新設した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
 ・平成24年度まで補助上限額が設定されていなかったことから、より多くの団体に制度を活用してもらうため、平成25年度から1団体あたり50万円以内とした。
 ・当市を訪れる外国人観光客の増加を図るため、平成30年度から外国人観光客受入促進事業を追加した。
 ・令和元年度から、同一事業に対する補助金の交付は3年を限度に改正した。
 ・新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、令和3年度に限定して販売促進事業(コロナ枠)を項目に追加した。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 新たに外国人観光客受入促進事業を加えたため、外国人観光客向けのパンフレットの作成などを行うことができ、補助事業者からは好評だった。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】 中小企業者が共同で実施する各種事業に対し補助することにより、活気あふれる商業地の形成につながることから整合が図られている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】 一者単独では困難な事業も、補助金を活用し共同で取り組むことにより実現性や相乗効果が高まり、一層の中小企業の振興が図られる。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 市内中小企業者で組織している団体、グループなどが行う中小企業の振興を図るための事業を対象にしており、対象・意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 おおむね目標水準を維持し、適正に事業が行われている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事業の全額を自己資金で賄うことになれば、自己資金に余裕がない中小企業者は、新たな事業に取り組むことが困難になる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 事業費を削減すると、中小企業団体が新たな事業に取り組むことが困難になる。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 担当人数は最低限であり、人件費削減の余地はない。また、申請前事業説明会の廃止など人件費削減に努めている。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 広報、ホームページ、報道機関などを通じて広く募集をした上、事業計画書を提出した中小企業団体を対象にしており、公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果																					
① 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) → 3 終了・廃止・休止	左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 現状どおり継続して事業を実施する。 ただし、東日本大震災被災企業を含む団体の申請に対する補助率優遇措置を廃止し、新たに、新型コロナウイルス感染症の影響により売上が減少した企業を含む団体の申請に対し、補助率優遇措置を講じる。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	仮設から本設となった商店街を含む中小企業者組織が、振興策に取り組む事業として効果があった。今後の中小企業者組織がより魅力を持ち、集客を図るための効果的な取組として商工会議所と連携し、推進していくこと。